

自己評価報告書 学校関係者評価報告書

平成29年度

I 教育目標

- (1) 学校法人 愛知産業大学建学の精神
- (2) 愛知産業大学三河高等学校全日制課程の教育目標
- (3) 愛知産業大学三河高等学校全日制課程の教育指導方針

II 重点目標の達成及び改善方策

- (1) 教 務
- (2) 指 導
- (3) 総務・渉外
- (4) 学 年
- (5) 事 務 局

III 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

IV 平成29年度 学校関係者評価委員会報告



I 教育目標

(1) 学校法人 愛知産業大学建学の精神

「社会から喜ばれる知識・技能を有し、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、英知と勤勉な国民性を高め科学技術文化の発展に貢献する」という学園の建学の精神は、創始者である水野恒治先生の目指す教育が凝縮されている。平成23年に「豊かな知性と誠実な心を持ち、社会に貢献できる人材を育成する」に改定されたが、根本精神は新しいものに踏襲されている。

(2) 学校法人 愛知産業大学三河高等学校全日制課程の教育目標

①生徒は、建学の精神をより身近な言葉で表した「誓いの言葉」を毎朝唱和することにより、その精神を実践する。

②校訓「感謝」「礼儀」「誠実」「積極」「努力」のもと、学校を人格形成の場と位置付け、感謝の念に富み、礼儀正しく、誠実かつ積極的に努力する人材の育成に力を注いでいる。

③毎月月訓を定めて、生徒により具体的な目標として意識・実践させている。

4月	「高校生の自覚」	} 1学期
5月	「遵法」	
6月	「誠実」	
7月	「努力」	} 2学期
9月	「礼儀」	
10月	「積極進取」	
11月	「読書」	} 3学期
12月	「感謝」	
1月	「希望」	
2月	「反省」	

(3) 愛知産業大学三河高等学校全日制課程の教育指導方針

・学習指導方針

- ①学習に対する積極性を養うため「よく分かる授業」に心掛ける。
- ②教材の精選と基礎力の習得により「実力は努力から生まれる」をモットーに、やればできるという意欲を持たせるように努める。
- ③進路別、習熟度別学級編成により、きめ細やかな指導を行う。
- ④普通科は、国公立大学・難関私立大学・県内私立大学進学のために基礎学力の向上と大学入学試験に対応した実践形式演習を行う。
- ⑤電気科・情報処理科は、主要3教科の基礎学力の充実と、早期の取り組みによる専門教科の学力・実技力の向上を図る。

・生活指導方針

- 人間性の育成が最も大切であると考え、「周囲の人々から愛され、信頼される人間」の資質を作るために、
- ①報恩感謝の念が強く、義務と責任をわきまえた誠実な生徒を育成する。
 - ②躰教育に力を入れ、マナーの良い生徒を育成する。
 - ③部活動の参加を奨励し、明朗で幅広い人間性を備えた人材の育成に努める。

II 重点目標の達成及び改善方策

(1) 教 務

重点目標	年度末評価
<ul style="list-style-type: none"> ・退学者の減少を目指す。 ・定期試験における欠点者数の減少を目指す。 	<p>前年度と比較すると5名の減であった。</p> <p>観点別で平常点を統一したため、教員の裁量により欠点を免れていた生徒が欠点となる場合もあった。来年度は生徒にも周知させる必要がある。</p> <p>学習支援教室は充実したが、試験の平均点が上限に届かない所もあったので、授業内容を含め教員への周知に努めたい。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学合格者数10名以上。 愛知・名城・中京30名以上。 	<p>国公立大学合格者7名、愛知大17名、名城大3名、中京大10名。愛知大合格者数が伸びている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・授業でのICT機器の活用を推進する。 	<p>導入の段階は十分となったので積極的な活用を図りたい。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・就職学校斡旋1次内定率85%、内定率100%を目指す。 ・資格取得の向上を図る。 	<p>1次内定率87.9%、5年連続内定率100%を達成。</p> <p>基本的な資格の取得については、横這い状態である。</p>
改 善 方 策	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人に目標を持たせる指導が必要である。短期的には教員間の連携強化、長期的には学校方針および校風の明確化による入学時のミスマッチを減少させる。 ・学習意義の理解、家庭学習の徹底を促す。定期試験作成時のチェックを強化し、授業態度の改善（教員の意識改革、授業中の居眠りなど）が急務である。 ・センター試験対策のさらなる充実と個別入試への対応を図る。 ・ICT機器の教員向け説明会を充実させる。 ・就職は、社会情勢好調のため、目標が達成できた。基本は生徒の実力を身に付けさせる。 ・資格取得は、合格レベルまでに到達できる指導方法を追求することが必要である。 	

(2) 指 導

重点目標	年度末評価
<ul style="list-style-type: none"> いじめ撲滅。 	<p>無視をするなどのいじめの初期段階があったが、家庭からの通報で対応できた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 携帯電話の使用マナーと SNS に関する使用方法。 	<p>歩きスマホなどのマナー違反が改善されていない。SNS に関しても引き続き監視する必要がある。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 公共マナーを守らせる。 	<p>デバッグの使用が増え、電車内で迷惑をかけているケースが報告されている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動の啓発、献血 400 名以上を目標とする。 	<p>献血において目標を達成し、日本赤十字社から特別功労賞を受賞した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 文化祭の充実（大使館との連携）。 全国大会出場 3 部以上を目指す。 	<p>3 年連続で大使館の協力を得られた。 アーチェリー部世界大会銀メダルをはじめ、柔道部、ボクシング部、ソフトテニス部が全国出場を果たした。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 部活動入部率 6 割以上を目指す。 	<p>878 名、72% の生徒が部活動に在籍し、活動した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 地域活動に積極的に参加する。 	<p>各学期末試験終了後、地域清掃活動に参加した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 生徒の心身の健康状態を的確に把握し、早期対応に努める 	<p>記録を残し、関係教員、保護者、主治医と連携し、早期に対応することができた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 生徒が相談しやすい保健室の環境作りを行う。 	<p>生徒の抱える問題を多面的にとらえプライバシーに配慮し、カウンセリングにつなげた。</p>
<h3>改 善 方 策</h3>	
<ul style="list-style-type: none"> 全職員が今一度本校の教育方針を確認し、日ごろの指導を真摯に取り組む。 これまで以上に教員が生徒を詳細に観察する力を養わなければならない。そのためには、家庭や生徒からの情報を効果的に活用する。 ボランティア意識を高められる啓発活動を推進する。 学校行事を通して、在学 3 年間で幅広い知識を得られるように立案する。 生徒の状態を的確に把握するために記録を残し、対応を分析することを今後も継続する。 生徒の状況が悪化する前に、カウンセラーと面談を行う。 心身の健康維持に対する知識を生徒に定着させ、自己管理能力の向上を目指す。 	

(3) 総務・渉外

重点目標	年度末評価
<ul style="list-style-type: none"> 推薦入学生400名超を獲得。 一般受験生1,000名超を獲得。 	<p>推薦入学生及び一般受験生共に目標数値をやや下回った。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 体験入学会、説明会、相談会の延べ参加者数1,200名超を目指す。 	<p>第1回体験入学会1日目648名、2日目251名、第2回398名、説明会相談会254名、合計1551名参加。目標達成。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 募集活動における臨機応変な印刷物等の企画と政策。 	<p>学校紹介ビデオと学校案内のイメージを連動させ波及効果を上げる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 現況報告会や学校見学会の内容を改善する。 	<p>現況報告会の内容を変えて、昨年と比べ充実したものになった。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 教育活動に必要な備品の整備を進める。 	<p>計画的に順次更新しているが、経年劣化は加速している。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 会議資料や定期試験問題のデータ化、ペーパーレス化に努める。 	<p>印刷に関わる使用料金が前年度比1.16倍になり、ペーパーレス化が後退した。</p>
<h4>改善方策</h4>	
<ul style="list-style-type: none"> 中学校訪問の回数や訪問内容の改善、体験入学会等の様々な学校説明会の実施方法や内容を見直す。特に普通科進学コースのアピール方法の改善を図る。 各中学校に対して、よりきめ細かい情報提供出来るように努め、さらに能力の高い生徒獲得を目指す。 現在、学校案内や学校紹介ビデオなどすべてを刷新し、来年度の生徒募集に繋がるよう企画制作に着手している。 現況報告会の内容を見直して、より三河高校をアピールできる内容にする。 備品の整理整頓と大切に使用する心を育てる。 ICT化を進めると共に一人一人が無駄をなくす努力をする。 	

(4) 学 年

重点目標	年度末評価
・欠席率2.0%以内を目指す	1学年の2クラスが2.0%を超えたが、他のクラスは達成できた。
・転退学者数を防止	転退学者は出たが、各学年の目標数値は達成した。この3年間、毎年減少している。
・大学合格者数の目標達成	国公立大学7名合格、大学合格者数54大学、219名が合格し、目標達成した。愛産大への進学者は26名にとどまった。
改善方策	
<ul style="list-style-type: none"> ・欠席者、転退学者防止のために生徒と面談する。また、カウンセリングを受けさせ、極力減らす努力をする。 ・保護者と連絡を密にし、情報を共有することで、生徒指導及び進路指導に役立てる。 ・家庭学習ノートを活用し、学習の習慣化を図り、実力をアップさせる。 ・進学情報を積極的に活用する。 ・進学、就職の面接指導を徹底する。 	

(5) 事 務

重点目標	年度末評価
・業務の棚卸を実施、見直しを図り、個人ごとの業務量の平均化を目指す。	授業料等補助金に関するデータ入力と確認について、業務の分散化と平均化が図られた。
・繁忙期に集中する業務については、閑散期に分散するなどの平均化を図り、残業ゼロを目指す。	授業料に関する補助金申請業務においては、県からの緊急的な提出期限の提示や保護者との連絡不通等があり、予定通りに進行しなかった。
・愛産大工業高校と事務担当者毎の事務研修会の実施。	工業高校との日程調整が出来ず、実施できなかった。
改善方策	
<ul style="list-style-type: none"> ・再度業務の無駄を抽出し、分散化による短いタスク処理のスピードアップを図り、繁忙期に備える。 ・工業高校との事務研修は、文章で意見交換を行う。研修が必要な場合は、開催する。 	

Ⅲ 学校評価の具体的取り組みや評価結果

- ・各部署に於いて達成項目、未達成項目はさまざまであるが、学校全体としては1年間それぞれの部署で重点目標を意識しながら取り組んだ。その結果を下記にまとめた。

【高評価なもの】

- ①生徒欠席率の低さ。不登校生徒がいる中で良い数字と思われる。
- ②退学者の少なさ。全学年目標数値以内達成。
- ③体験入学等の目標参加者大幅越え。(目標1200人、結果1540人)
先生方の協力(チーム三河の精神)と毎回職員アンケートをとり改善事項を取り入れ、より魅力的なものにした結果と思われる。
- ④就職内定率5年連続100%。好景気の影響もあるので気を緩めず十分な指導継続が必要。
- ⑤情報処理科の資格取得状況は、ほぼ目標をクリア。次年度は高い目標を設定する。
- ⑥生徒会活動の充実。前年度の反省から生徒主体の生徒会活動がさらに活性化され、有意義なものになっている。
- ⑦部活動の好結果。生徒募集にも多大な影響があるので、引き続き十分な指導が求められる。
- ⑧保健衛生安全管理においてはカウンセラーと協力するなど事前の対応が出来、大きな問題は無かった。

【要対策なもの】

- ①基礎学力の定着を十分にさせ、大学進学へ繋げる。
- ②本校入学試験受験生の減少。中学校とのより強い信頼関係の構築が必要。
ニーズに合った科、コース定員の再考が必要と思われる。
- ③ペーパーレス化の遅れ。各教員のPCの有効活用に努める。
- ④普通科Ⅰ、Ⅱ類の生徒募集。学力の定着は徐々に見られるので結果を出し募集増に繋げたい。
- ⑤学習支援教室のさらなる充実。基礎学力定着、欠点者減少が期待できる。
- ⑥電気科資格取得率の伸び悩み。ポイントを重点的に指導し演習問題中心に指導する。
- ⑦公共交通機関やスマホ使用マナー向上。苦情にしっかり対応し、生徒指導に努める。

上記に挙げた高評価なものについては、現状に甘んじることなくさらに高い目標設定し、30年度に繋げたい。

要対策のものは十分に反省し、各部署にて対応策を考え実行しなければならない。

Ⅳ 学校関係者評価委員会報告書

〔学校関係者評価委員〕

後援会会長	鈴木基夫氏
後援会副会長	清水美之氏
保護者会会長	山田朝恵氏
藤川町西部総代	中田正儀氏
西尾自動車学校校長	宇井均氏

1 学校教育目標に対する意見

- ・建学の精神に「社会に貢献できる人材の育成」とあるが、最近の若者を見ると自分の意見を言うことが少なく、困難な場面に直面すると逃げる傾向にある。是非、社会に役立つ生徒の育成をお願いしたい。

- ・「誓いの言葉」を毎朝昌和することは、素晴らしいことである。報恩感謝の気持ちを忘れずに毎時間の授業を大切にして、学校生活を送って欲しい。そして生徒自身が「社会から喜ばれる人間」になりたいと思える教育を実践して欲しい。

2 教務に関する自己評価への評価・意見

- ・定期試験の欠点者に対し、学習支援教室（寺小屋）を週3回実施していることは、大変評価できる。教員の仕事が増えるが、今後も継続して欲しい。
- ・生徒は先生によって変わる。「居眠りをしない。させない。」授業の工夫をお願いしたい。
- ・結果に満足せず、さらに高い目標設定をすることによって、マンネリ化が解消され、学校自体の評価も上がると思われる。今後も努力されることを期待する。

3 指導に関する自己評価への評価・意見

- ・最近の高校生は、デューバックを背負って乗車する者が多い。特に、車内が混雑しているときは、網棚等利用するなどの配慮が欲しい。
- ・学校周辺の定期的な清掃活動や地域行事への参加などが、定着してきている。今後も継続して活動をお願いしたい。
- ・部活動の生徒と思われるが、下校時に立ち止まって挨拶をしてくれる。また、校舎内でも多くの生徒が挨拶をしてくれる。なかなかできることではない。

4 進学指導に関する自己評価への評価・意見

- ・進学校化ということで、以前と比べると本校への入学が難しくなっている（偏差値が上がった）と聞いているが、旧帝大（東京大学、京都大学、名古屋大学など）への合格者の名前を聞かなくなった。寂しいと感じる。今後期待したい。

5 総務に関する自己評価への評価・意見

- ・ペーパーレス化が進んでいないようである。PCやiPadなどを活用し、紙使用量を減らす工夫をお願いしたい。

6 渉外に関する自己評価への評価・意見

- ・少子化が進む中、普通科の進学校化ということで基準を上げているようだが、現実には入学者数減となっている。今後が心配である。
- ・学校の評判を上げるためには、現場で授業をしている教員が、魅力ある授業展開をすることが一番大切である。地道に努力して、入学者増に繋げて欲しい。

7 学年に関する自己評価への評価・意見

- ・2学年の欠席率や転退学率が低いということで、評価が高い。今後も頑張ってもらいたい。

8 事務に関する自己評価への評価・意見

- ・特に意見がないため、自己評価は適切であると判断できる。

9 その他(全般)意見

- ・教務と学年の目標に転退学者率の目標値が記載されているが、転退学を望んで入学してくる保護者や生徒は一人もいないと思う。従って、目標値を設定することはいかなものかと感じる。結果のみの記載が良い。
- ・三河高校は熱心な先生が多く、指導体制が充実しており、生徒を育てている。このことをもっとアピールすることが必要である。
- ・三河高校の魅力を前面に出して、外への発信力を強化する。